

こんにちは!

村立東海病院であ



「風邪を引いたので抗生物質をもらえませんか?」という方へ



風邪の原因の多くはウイルスです。抗生物質・抗菌薬は効果がありません!

「風邪」とは「ほとんどの場合、自然に良くなるウイルス感染症で、多くは咳・鼻汁・咽頭痛といった多症状を呈するウイルス性上気道炎のこと」であると言われています。抗生物質・抗菌薬は「細菌」を退治する薬であり、「ウイルス」による感染症には効果がありません。風邪の原因はウイルスなので、風邪には抗生物質・抗菌薬は効かないことが理解できると思います。「抗生物質を飲んだから風邪が治った」と患者さんに言われることがありますが、本当に風邪であれば、それは抗生物質・抗菌薬が効いたのではなく、自身の免疫力でウイルスに打ち勝ち、回復した時期がちょうど抗生物質を飲んだ後の時期だったためと考えられます。



抗生物質・抗菌薬が効かなくなる!?

これまで、多くの細菌を駆逐する優れた抗生物質・抗菌薬が多く世に出てきた一方で、細菌も薬が効かなくなるように変化を遂げてきました。抗生物質・抗菌薬がむやみに多く使用されるほど、それに対抗できる細菌が勢力を拡大するようになり、このままの状況が続くと、2050年には“使用できる抗生剤がない細菌感染症”が増加してしまうと懸念されています。つまり、将来病院で「細菌による肺炎」と診断されても、使用できる抗生物質・抗菌薬が無いかもしれない、ということです。この現象はAMR (Antimicrobial Resistance、抗生物質耐性)と呼ばれ世界中で危惧されており、2017年には厚生労働省から啓発ポスターが発表されました。



抗生物質・抗菌薬を大切に使うために、私たちにできること

私たち医師は、患者さんから症状の経過や様子をお聞きして診断を考えます。上記のように、のどの痛み・鼻水・咳といった症状がそろっている場合、ほとんどは風邪(ウイルス性上気道炎)なのですが、症状の程度や経過によっては、別の疾患を疑う場合もあります。したがって、医療機関を受診する場合は、メモなどを活用し、症状の経過や程度をできる限り具体的に伝えていただくと、正確な診断・治療に結び付くと考えます。

また、抗生物質・抗菌薬にはたくさんの種類や使用方法、使用量があり、医師は最適な抗生物質・抗菌薬を選択します。他の人の薬を勝手に飲んだりせず、処方された薬は必ず最後まで飲み切るようにしてください。こうした一人ひとりの行動が、私たち人類の財産である抗生物質・抗菌薬を守ることに繋がると信じています。

村立東海病院 内科医 大野 洋平



【問い合わせ】村立東海病院(☎282-2188)、福祉保険課地域医療担当(☎287-0899)